

トーマス・ハンフリー教授



ハンフリー先生は畜産学の研究者として過去40年に渡り、一貫してサルモネラやカンピロバクターなど人畜共通感染症の研究に携わってこられました。英国国立の研究機関(PHLS / Public Health Laboratory Service)に20年勤務され、2001年にブリストル大学、2010年～2014年にはリバプール大学で教鞭を執られました。80年代から90年代は鶏卵のサルモネラについて精力的に研究される中、1997年には英国鶏卵業界でのサルモネラワクチン導入で中心的な活躍をされました。

現在は、スワンセア大学医学部の細菌学・食品安全学教授であり、養鶏場の飼育環境が鶏に与える影響が研究テーマです。特にカンピロバクターについて、宿主と病原体の相互作用や、鶏本来の免疫反応、腸内環境という視点からその影響を研究されています。

目下のところ、鶏と共生関係にあると言われていた細菌が、実は鶏の健康や日々の行動に悪影響を与えているという研究を続けています。

これまでに300報以上の論文を発表され、1989年には微生物学への多大なる貢献を称えて応用微生物学会からピアス賞が授与されました。

また2002年には食品微生物学への貢献としてユニリーバ社主催の講演賞、2006年には家禽類の研究への貢献として世界家禽科学協会から記念講演賞がそれぞれ贈られています。